



瓊浦高等学校  
学校通信  
第 68 号

平成30年4月27日発行  
電話 095-826-1261

瓊浦窓  
の

「新しい出会い」

校長 宮崎 芳之

4月7日、272名の新入生を迎え、生徒総勢853名で平成30年度のスタートを切ることになりました。新しい年度を迎えるに当たり、生徒諸君は新しい学級で新たな友との出会い、あるいは新しい学級担任、教科担任との出会い、新入生であれば部活動で先輩との出会い、更には本や学問との出会い等、様々な出会いがあったかと思えます。

私たちは、新しいことや新しい出会いには、少なからず誰でも不安がありますが、それは同時に、これから起こることへの大きな夢や期待が持てるということでもあります。

我々の人生はいつ、どのような時、誰と出会ったかで変わると言ってもよいでしょう。生徒諸君は出会った人から良い影響を受け、あるいは与えながら、無限の可能性を实らせてほしいと思います。そして、生き生きとした、いじめや争いなどのない楽しい学校生活を送れることを願っています。

そこで、もう一度確認しておきたいと思えます。

今年の目標として、「日本一楽しい学校にしよう!」と皆に訴えました。

誰でも「好奇心」という素晴らしい、すごい力を持っているのだから「何かをやってみよう! 知りたい!」「・・・をできるようにしたい!」と言う気持を持とう! 「勉強でも遊びでも、これがたくさんあると楽しくなる。好奇心は、『不安』を『楽しい』に変える力なのだ」と言ったかと思えます。

そして日本一楽しい学校にするためにもう一つ「豊かな心を持とう!」「自分のことだけを考えないで、相手の立場になって考えよう。」「大事なことは、自分に対しても他人に対しても思いやりの心で接することなのだ」と。

「好奇心を持って前向きに、そして豊かな心を持って皆で日本一楽しい学校を創ろう!」 実現出来るような気になりませんか?

これまで「瓊浦は日本一が狙える学校」と常日頃から言ってきましたが、それを昨年国体の陸上の林田君が達成し、3月の全国選抜大会ではバドミントン男子がそれに匹敵する日本で2位の活躍を見せてくれました。これは長崎県にとっても初めての快挙だそうです。

自分の夢を叶えるための秘訣は「人前で自分の目標を宣言することだ。」ということで毎年、年のはじめに、各学年の生徒代表に宣言してもらっていますが、それが現実となっているのです。素晴らしいことです。

身近なところでは、クラス全員で目標にした「年間欠席0」、「赤点0」、「特別指導0」など、みんなで一生懸命に努力して目標を達成したクラスがあったことも素晴らしいかと思えます。

これこそ、 $V = P \cdot A$  情熱 (Passion) と行動 (Action) を持って挑戦すれば必ず未来 (Vision) が見えてくるのです。

情熱を持って行動 (Action) を起こせば必ず Reaction として結果が返ってきます。自らを輝かせるための勝利の方程式が「 $V = P \cdot A$ 」なのです。

今年度も保護者の皆様のご理解ご支援のほどよろしくお祈りいたします。

始業式で校長先生より「豊かな心を持って」とのお話がありましたが、本校演劇部の生徒が行動で表してくれました。観光客の方からの感謝のお手紙を紹介します。

先日は亀山社中までの道を教えてもらいありがとうございました。おかげさまでスムーズにたどり着くことができました。また、道々話を聞かせてもらい楽しい思い出となりました。(中略)一生懸命勉学に励み、部活を楽しみ、思い出に残る学生時代を過ごしてください。熊本から応援しています。

## 祝 全国選抜 準優勝!!

バドミントン部男子が全国高等学校選抜大会で、見事県勢初の決勝進出・準優勝を果たしました。主将の滝口友士君(龍普3A)よりの報告です。

3月の終わりに愛媛県でおこなわれた全国選抜の団体戦で準優勝という結果を残すことができました。大会までに学校での生活で支えてくださった先生方に深く感謝しています。

試合は一回戦から厳しい戦いだったのですが、チーム一丸となって勝つことができました。準々決勝では第一シードの学校との対戦でしたが、みんなで挑戦者として向かっていく気持ちで戦い、一つも落とさずに勝ち、勢いにのることができました。準決勝は粘ってきた相手に苦戦したものの、相手より我慢することができ、今までに越えることのできなかつた準決勝の壁をついに乗り越えることができました。決勝戦は何度も優勝経験のある相手に自分達のプレーはできましたが、相手の方がレベルが上で、日本一まであと一つの所で負けてしまいました。

決勝まで上がってこられたのは、自分達の力だけではなく、いろいろな人のサポートがあったからです。試合に出られないチームメイトが声をからしながら声援を送ってくれる姿にどれだけ勇気をもらったか。言葉では言い表せないくらいの力をわけてくれました。何不自由なくバドミントンをするのに支えてくれる両親や会場まで足を運んでくださった保護者の方のサポートがあってこそその結果なので、とても感謝していますし、支えてくださった方々に少しは恩返しできたのかなと思えます。

今回初めて決勝の舞台に立ち、会場みんなが見ている中で試合できたことはとてもいい経験になりました。決勝という張りつめた空気の中で自分達のプレーをすることの難しさを感じ、みんなで決勝まで登りつめた自信を身につけることができました。また同じ舞台に立った時に、次は勝てるようにしたいです。

大会を迎えるまでに朝練や普段の練習で、試合に勝つためにはどうしたら良いかを考え準備してきたことが、今回このような結果につながったんだと思えます。朝練はランニングとウエイトトレーニングで、一人ひとりが高い意識を持って連戦になっても負けない体づくりをしてきました。普段の練習では、どんな内容でも試合で使えるか、相手との勝負になったら絶対負けず、勝ちにこだわって戦うというのを突きつめてやっていた、ここが今回本番の試合でも良い緊張感の中で勝ち続けられた大きなポイントだと自分は考えています。

日常生活では仲の良いチームメイトも、コートの中に入れば敵同士になるので、そこでどれだけ真剣勝負できるかがチーム全体のレベルを上げるのに必要になってくると思えます。しかしまだ自分達は目標である日本一に届いていません。今までよりもっとバドミントンと向き合い、練習の質を上げられるかが日本の頂点を手にするための大きな要因になってきます。

夏のインターハイでは今回よりさらに厳しい戦いになってくると思えますが、もう一度決勝の行きリベンジできるようより一層の努力をしていきます。

また6月には高総体が待ち受けています。チーム瓊浦。一丸となり、一本でも多くの優勝旗を取りたいです。



## バドミントン準優勝記念インタビュー

今大会にチームの主力として出場した滝口 友士くん(普3A)、山田 麟くん(普3C)、そしてマネージャーとしてチームを一番近くで見守りサポートした長野 航太くん(普3A)に独占インタビューを行った(平成30年4月2日)。



インタビュアー(以下I): 選抜大会準優勝、おめでとうございます。

滝口・山田・長野: ありがとうございます。

I: 選抜大会を終えて、滝口くんと山田くんはどのような気持ちですか?

滝口: 顧問の先生方のご指導を信じ、今までやってきた事が無駄じゃなかったと実感できました。自分たちの代になってから全国大会で結果を残せてなかったので準優勝という結果を残せて良かったです。でも、林先生から言われたとおり、「ここから」だと思っています。

山田: 決勝で負けたのは悔しいけど準優勝できてとても嬉しいです。僕自身は大会直前まで出られない予定だったので試合に出て、結果を出せて良かったなと思います。

I: 山田くんは試合に出られない予定だった??

山田: 実は大会本番直前まで調子が上がらなくて…。信じて僕を使ってくれた林先生の期待にこたえたいと思って全力で頑張りました。

I: 長野くんは今大会、マネージャーとしてチームに帯同しましたがどうでしたか?

長野: 試合に出たかったのもあるけど、チーム全員で決勝まで行くことができ素直に嬉しいです。でも夏のインターハイまでにやらないといけないことがまだたくさんあるので、夏に最高の結果を出せるように練習しないといけないと思いました。

I: 同級生の二人(滝口・山田)のプレーを間近で見てどうでした?

長野: 二人とも神がかったました(笑)。観ていて本当にすごいと思ったし、頼もしかったです!

滝口・山: うそだろー!(笑)

長野: いやいや、本当に。決勝以外は相手を圧倒していました。ひょっとしたら決勝(対埼玉栄)も勝ってくれるのでは?と期待していました。

I: (滝口くん、山田くんへ)それぞれ試合を振り返ってみてください。

滝口: 1回戦から2ダブルが落として苦しい試合だったんですけど、落ち着いて自分たちのプレーができました。ベスト8からは強豪が相手に向かっていただけだったので勢いに乗って決勝までいけました。

山田: 1回戦からこの前負けた高校だったので不安もあったけど何とか勝てました。二試合目は地元愛媛県の学校で相手に押されつつも何とかチーム一丸となって勝つことができ勢いに乗れました。三回戦は前年度王者のふたば未来学園高校。向かって行くだけと思って試合に入ってしっかり勝ってさらにチームの勢いをつけることができ、その流れで勝てました。決勝は向かって行ったけど、実力の差が少しあったかなーというのが正直な感想です。

I: 長野くんは?

長野: 初めてメンバーと行動して、自分のことをしながら次の日の準備とか試合に必要なものを考えたりするのが正直大変でした。でも、フロアに降りてメンバーのサポートという形で一緒に戦えて勉強になったし、自分もメンバーに入れるように残りの時間を大切に過ごそうと思いました。

I: (滝口くん・山田くんへ)抱えている課題は?

滝口: 優勝した埼玉栄とはまだ1位と2位という結果以上にレベルの差があるので早くそのレベルに追いついてもっと勝負できるようにしたいです。

山田: 自分たちの課題は、シャトルに潜り込んで打つことと、前に詰めるのを早くすることです。

I: 最後に、今後の抱負を!

滝口: 夏のインターハイで戦うためにまずは九州大会を制覇して勢いをつけたい。再び全国の決勝の舞台に立ち、今度は優勝できるようにしたいです。

山田: インターハイの個人戦で結果を残すことと団体戦では優勝を目標に頑張りたい。これからの練習を大事にして1日1日を頑張ります

長野: メンバーに入れるように高校総体で結果を出せるように練習する。まずは春季戦でしっかりと4枠に入ることが目標です。

## 県高校春季選手権 剣道部女子 瓊浦史上初の準優勝!!

『長崎新聞』の記事です。  
(2018年4月16日付)



瓊浦女子、初の準V  
○: 就任5年目の宮崎監督の下、着実に力をつけてきた瓊浦女子の瓊浦が初の準優勝。宮崎監督は「まだ優勝には程遠いけど、実績のない子たちがやっとなってきた。後輩への刺激もなければ」とうなずいた。昨年11月の県新人大会と1月の全国選抜大会と連続して代表戦で下して4強入りすると、西陵との準決勝は0-0から主将の大将

宮崎監督が「まだ優勝には程遠いけど、実績のない子たちがやっとなってきた。後輩への刺激もなければ」とうなずいた。昨年11月の県新人大会と1月の全国選抜大会と連続して代表戦で下して4強入りすると、西陵との準決勝は0-0から主将の大将

## 宿泊研修

4月11日(水)から13日(金)の3日間、国立諫早

青少年自然の家において宿泊研修を行いました。1日目の集団行動や校歌指導では、最初はなかなか息が合わない場面が多く、先生方から指導を受ける場面もありましたが、その甲斐もあり、学年全体で意識を高め合うことができました。

2日の五家原岳登山では、前日の雨の影響で足場の悪いところもありましたが、生徒達の頑張りもあり、例年以上に早く頂上まで辿り着くことができました。その後の科別集会では、各学科の先生方からお話をして頂き、生徒達の意識も高まったと思います。

最終日は、野外炊飯と集団行動の成果発表会を行いました。野外炊飯では初めて料理をする生徒もあり、火起こしから行い、みんなで協力し合い美味しいカレーを作りました。また、成果発表会では、各クラス3日間の研修での成果をしっかりと見せてくれました。この宿泊研修での経験を今後の学校生活に活かして頑張りたいと思います。



## 《主な行事・5月》

- |        |                |
|--------|----------------|
| 1日(火)  | 振替休日(入学式)      |
| 2日(水)  | 振替休日(PTA総会)    |
| 8日(火)  | 尿検査(~9日)       |
| 12日(土) | PTA総会          |
|        | 中間考査(~15日)     |
| 14日(月) | 身体測定(欠席者)      |
| 15日(火) | 薬物講話           |
| 21日(月) | 高総体特別時間割(~31日) |
| 30日(水) | 振替休日(高総体)      |
| 31日(木) | 高総体推戴式         |